

猿橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

行動する傍観者

校長 磯部 裕之

先日、新聞で「アクティブ・バイスタンダー（行動する傍観者）」という言葉を知りました。ハラスメントや差別を受けている人に適切に介入する第三者のことで、事態が悪化するのを防ぐ効果があるとの事でした。

この記事を書いた記者の方が、実際にこの「行動する傍観者」に係る研修に参加したところ、研修の冒頭で代表者の方が話された言葉にショックを受けたそうです。

何もしないということは、目の前のハラスメントを容認することにつながります。差別行為を見過ごすことは、「中立」ではなく、差別の加担になり得ます。

この記者の方は、研修で次のように学んだとコメントしています。

- ・私たちの社会は、「行動する傍観者」が必要な場面にあふれている。
- ・加害者と直接、対峙（たいじ）しなくても、別の人に助けを求めたり、まったく関係のない話をしたりして注意をそらしたりすることも立派な介入になる。

こういった差別を見抜く目や人権感覚を高めるために、学校では、人権教育、同和教育の授業を行っています。

12月6日に、6年生は、部落差別と闘って来られた長谷川サナエさん（部落差別解放同盟新潟県連合会新発田住吉支部長）より、ご自身の体験を含めたお話を聞かせていただきました。

- 差別とは、人と人との手のぬくもりを断ち切ること
- 差別に対して「ノー」と言おう！これは世界基準である

6年生は一人一人が真剣に話を聞き、メモを取っていました。

途中、水平社宣言を原文で長谷川サナエさんが読み上げると、その言葉一つ一つに込められた強い思いに、子どもたちの心が大きく揺さぶられている様子が伝わってきました。

「差別はなぜあるのですか」「それは、差別する人がいるから」子どもたちの質問にも丁寧に答えていただきました。

また、「はじめの一步は自分から」という長谷川サナエさんの言葉に込められた「行動しないと、何も変わっていかないんだよ」というメッセージも、しっかりと心に響いているようでした。



【真剣に聞く子どもたち】



【休憩時間の様子より】

「差別」のない社会が実現するのが一番よいことです。しかし、私たちが生活していく中で、実際に差別や偏見に直面することがこれからもあるでしょう。その時に、自分がどう判断して、どういう行動をとるのか、これからもしっかりと学んでいきたいと思いを。そして、誰もが安心して自分らしさを発揮できる、そんな猿橋小学校にしていきたいと思いを。

2学期、たくさんのご理解とご協力ありがとうございました。
皆様、良いお年をお迎えください。